

集落実態調査の報告

【令和6年度実施】

(概要)

I 集落实態調査の概要

1. 調査の目的

(仮称)廿日市市中山間地域振興ビジョンの策定に向けて、佐伯地域、吉和地域の住民生活や住民自治の実態、現在の地域課題、20～30年後の未来を想定した展望などをヒアリング調査により把握することで、今後のまちづくりの方向性や具体的な取組を検討するうえでの基礎資料を収集・整理することを目的とする。

2. 調査対象

佐伯地域、吉和地域に所在する全ての住民自治組織（コミュニティ）および、それを構成する自治会・町内会等の役員・住民等

3. 調査方法

上記調査対象地域等を訪問または市民センター等に集まってもらってのグループインタビュー（一部地域は住民アンケート調査で代用）

I 調査結果概要

1. 佐伯地域

(1) 生活機能

① 交通手段

- 自家用車の移動が基本（運転できれば大きな問題は感じない）
- 将来的に運転できなくなった場合の生活に不安を感じている
- 運転免許のない人は、家族・親族による送迎を中心に、地域公共交通、近隣での乗合などにより移動を確保
- これからは公共交通利用が増えるのではないか
- 公共交通利用では、路線バス等との乗り継ぎの問題、便数の問題、デマンド交通の予約等のわずらわしさ、デマンド交通が対応していない地域の問題などが指摘された

② 買い物

- 佐伯地域内のスーパー、ドラッグストア、ホームセンター等の利用が多い
- ただし、沿岸部（宮内等）まで行く人も多い
- また、生協の利用も比較的多くいる

③ 医療

- 佐伯中央病院、天野医院、おおくぼ内科の利用が多い
- 専門診療科になると廿日市市中心部を利用する人が多い
- 歯科については、佐伯地域内はかみて歯科クリニックの利用が多いものの、1施設のみで予約が取りにくいなどの意見も聞かれた

④ ガソリンスタンド

- 佐伯プロパン（エネオス）、田淵商会（出光）の2か所があり、峠地区にあったガソリンスタンドが閉鎖され、不便になった
- 将来的に地域のガソリンスタンドがなくなるのではないかとといった不安の声も聞かれた
- 一方で、廿日市市中心部に出かけた際に安いところで給油するとの意見も多くなっている
- なお、灯油などはガソリンスタンド、ホームセンターのほか、配達を利用する人もいる

⑤ 金融機関

- A T Mの利用が多く、大幅に不便という意見は少ない
- ただし、広島信用金庫の窓口が閉鎖されたことにより、不便を感じる人もいる

⑥ 見守り

- 多くの地域で、高齢独居世帯や高齢夫婦世帯などを対象に、近隣住民間で相互に気にかけてながら見守る関係性が現在も維持されている
- その他、民生委員の訪問や地域での高齢者サロンなどもあり、不安という意見は少ない
- 市広報誌が新聞折り込み、郵送に変わったことで、回覧板を回すなどの地域内のコミュニケーションは減っているものの、一部地域では、地域情報を共有するよう、役員が回覧を行うなどの取り組みもみられた
- 一方、災害時等の対応は、コミュニティ等による自主防災体制の構築が始まったところ
- ただし、近隣住民間のコミュニケーションが密な地域は、地区役員等が中心となって独自で声かけや避難支援を行っているところもある

(2) 農林業

- 農業の稲作については、農業法人に依頼している世帯が増えており、農業法人の持続性に対して不安を感じているとの意見が聞かれた
- 畦畔の草刈りや溝掃除など、農業者を中心に対応されているが、いつまで維持できるか不安との声も
- 山林に関しては、手入れがされているところが少なくなっており、災害の発生の可能性も含めて不安視する意見もあった
- ただし、管理する人手不足もあり、今後大きな問題になるのではないかと

(3) 移住者等

- 各地域ともに移住者はみられるものの、積極的に受け入れている地域は一部に限られる
- 住居確保としての空き家の利活用は、所有者が年数回の利用、仏壇・墓がある、家財が残っているなどの理由で貸し出し、売却を躊躇するケースが多い
- 一方で、空き家バンク等に物件が登録されると引き合いは多く、空き家に対する需要は大きい

(4) 住民自治活動

- 古くからの住民を中心に構成される地域と新たに開発されてできた地域などが混在しており、それぞれに運営上の課題がみられる
- 古くからの地域では高齢化による担い手不足による従来の活動の縮小・中止等が課題
- 新たに開発された地域では、町内会へ入会している人と入会していない人などが混在することで生じる問題等がみられる
- 人口減、高齢化等により、町内会等を構成する班・組などの組織再編、町内会自体の再編などが必要な状況も生まれつつあるが、地域再編は困難な場合が多く、議論が進んでいない地域が多い

2. 吉和地域

(1) 生活機能

① 交通手段

- 自家用車の移動が基本（運転できれば大きな問題を感じない）
- 将来的に運転できなくなった場合の生活に不安を感じている
- 運転免許のない人は、家族・親族による送迎を中心に、地域公共交通、近隣での乗合などにより移動を確保
- これからは公共交通利用が増えるのではないか
- 公共交通利用では、路線バス等との乗り継ぎの問題、便数の問題、デマンド交通の予約等のわずらわしさ、デマンド交通が対応していない地域の問題などが指摘された

(2) 買い物

- 吉和地域内のスーパーの利用に加え、佐伯地域内が多い
- 中には、沿岸部（宮内）まで行く人もみられた
- また、生協の利用も比較的多くいる

(3) 医療

- 吉和診療所の利用が多く、それ以外では佐伯地域内や廿日市市中心部を利用する人がいる
- 専門診療科になると廿日市市中心部を利用する人が多い
- 歯科については、吉和診療所の利用が多いが1施設のみで予約が取りにくいなどの意見も聞かれた

(4) ガソリンスタンド

- ササキ（エネオス）1か所のみで、地域内での利用を心掛けているとの意見もあったが、価格面から、地域外で給油する人も多い
- なお、灯油などは配達を利用する人も多く、特に吉和地域内では、年間使用量が多い世帯もあり、配達を利用するとの意見が多くなっている
- 一方で、廿日市市中心部に出かけた際に安いところで給油するとの意見も多くなっている

(5) 金融機関

- ゆうちょ銀行（郵便局）とJAがあるが、JAのATMが無くなったことで、窓口のみでは不便との意見があった

(6) 見守り

- 多くの地域で、高齢独居世帯や高齢夫婦世帯などを対象に、近隣住民間で相互に気にかけてながら見守る関係性が現在も維持されている
- その他、民生委員の訪問や地域での高齢者サロンなどもあり、不安という意見は少ない
- 市広報誌が新聞折り込み、郵送に変わったことで、回覧板を回すなどの地域内のコミュニケーションは減っているものの、一部地域では、地域情報を共有するよう、役員が回覧を行うなどの取り組みもみられた
- 近隣住民間のコミュニケーションが密な地域は、地区役員等が中心となって独自で声かけや避難支援を行っているところもある

3. ヒアリング結果概要【農林業】

- 農業の稲作については、農業法人に依頼している世帯が増えており、農業法人の持続性に対して不安を感じているとの意見が聞かれた
- 畦畔の草刈りや溝掃除など、農業者を中心に対応されているが、いつまで維持できるか不安との声も
- 山林に関しては、手入れがされているところが少なくなっており、災害の発生の可能性も含めて不安視する意見もあった
- 管理する人手不足もあり、今後大きな問題になることが懸念されている

4. ヒアリング結果概要【移住者等】

- 各地域ともに移住者はみられるものの、積極的に受け入れている地域は一部に限られる
- 住居確保としての空き家の利活用は、所有者が年数回の利用、仏壇・墓がある、家財が残っているなどの理由で貸し出し、売却を躊躇するケースが多い
- 一方で、空き家バンク等に物件が登録されると引き合いは一定数ある

5. ヒアリング結果概要【住民自治組織活動】

- 一部別荘地住民が混在する地域などもみられるが、古くからの住民を中心に構成される地域がほとんどである
- 高齢化による担い手不足が従来の活動の縮小・中止等につながっている
- 人口減、高齢化等により、町内会等を構成する班・組などの組織再編、町内会自体の再編などが必要な状況も生まれつつあるが、地域再編は困難な場合が多く、議論が進んでいない地域が多い

6. ヒアリング結果概要【将来展望・要望】

- 人口・世帯が半減する可能性が高いとの意見もあり、地域活動をどのように維持していくか不安を感じる人が多い
- 次の世代に地域活動をつなぐことについては、多くの地域は数人の担い手がいるとの声もあったが、小規模集落では次を考えるのが難しい状況もみられた
- 現在住んでいる地域で暮らし続けるためには、道路環境の維持、利便性の高い公共交通手段の確保、買い物先、医療施設の確保、現役世代の働く場所の確保などの意見が聞かれた

【補足】佐伯地域地区別ヒアリング結果概要

1. 玖島地区 結果概要 その1

- 古くからの住民を中心に構成される地域と新たに開発されてできた地域などが混在しており、それぞれに運営上の課題がみられる
- 古くからの地域では高齢化による担い手不足による従来の活動の縮小・中止等、新たに開発された地域では、町内会へ入会している人と入会していない人などが混在することで生じる問題などもみられた
- 地区内の各種生活機能が無くなったことで、地域の衰退を感じる人が多い
- 一方で、生活機能が集積する友和地区に近いことから、自家用車での移動が可能な場合は、生活面で不安を感じることはない

1. 玖島地区 結果概要 その2

- ただし、幹線道路沿いから離れた地域では、自家用車と比較してデマンド交通利用の不便さを指摘する意見もあり、今後、免許返納等で運転できなくなる人が増えた場合の交通手段確保に課題がある
- なお、生活圏の一部が広島市佐伯区湯来に及ぶ地域もある
- 人口・世帯が半減する可能性が高いとの意見もあり、地域活動をどのように維持していくか不安を感じる人も多い
- 次の世代に地域活動をつなぐことについて、多くの地域は数人の担い手がいるとの声もあったが、小規模集落では次を考えるのが難しい状況もみられた
- 今後、現在住んでいる地域で暮らし続けるためには、道路環境の維持、利便性の高い公共交通手段の確保、買い物先、医療施設の確保などの意見が多くきかれた

2. 友和地区 結果概要 その1

- 県道30号沿線を中心に40年以上前から住宅開発が行われたことで、中山間地域の生活様式の地域もあるが、都市部の郊外住宅団地の生活様式に近い地域も多くみられる。
- 幹線道路沿いを中心に交通利便性が高いこと、佐伯支所管内の工業団地の整備など、雇用先があることも含め、住宅需要もあり、新たな人（世帯）の流入もみられる。
- 古い住宅団地においても、立地環境によっては、居住者の入れ替わりが進んでいる。ただし、開発方式の違いにより、団地内道路等が私道で管理を住民自らが行う必要がある場合も見受けられ、空き家の流通可能性に差がみられる。

2. 友和地区 結果概要 その2

- 住民自治の観点では、古くからの居住者と新規の居住者で意識の違いがあり、町内会などの住民自治組織に入会しない人もおり、地域内で軋轢が生じている事例もみられた。
- また、町内会の間でも課題が異なり、その連合体であるコミュニティで、地域づくりの方向性を見出しにくい環境にある。
- 生活機能に関しては、幹線道路沿線に各種店舗・施設が立地することで、自家用車の運転ができなくなっても、路線バスにより利用可能なことから、将来的な住民の不安は他地区と比較して小さい。ただし、ガソリンスタンドの閉店等もあり、生活機能の縮小に対する不安の声も聴かれた。
- また、幹線道路から少し離れ、デマンド交通の利用できない地域からは、将来的な移動手段確保に関する不安の声が聞かれた。

3. 津田・四和地区 結果概要 その1

- 地域の中心地として、古くからの住民を中心に構成される地域が多いものの、新たに開発されてできた地域などが混在する地区もあり、それぞれに運営上の課題がみられる
- 津田の古くからの地域や四和では、各町内会や班の規模が小さく、高齢化も進んでいることから、町内会活動の低下が懸念される
- 新たに開発された地域では、町内会へ入会している人と入会していない人などが混在することで生じる問題などもみられた
- 多くの地域では、今後、空き家の増加が懸念され、所有者（相続者）が管理や利活用を行ってくれるかといった不安が聞かれた
- 一方で、幹線道路沿いに立地し、交通利便性が高い地区では、新たな人（世帯）の流入もみられ、空き家の活用が進みやすい環境にある

3. 津田・四和地区 結果概要 その2

- 地区によっては、佐伯高校の生徒を下宿で受け入れるなど、学校との連携なども図られている
- 地区内の店舗の減少など、地域の衰退を感じる人もいるが、商店街を中心に新たな動きも生まれており、前向きな変化も起こりつつある
- 幹線道路から離れた地域では小規模化が進んでおり、地域活動の担い手が限定され、持続性に不安を感じる意見が多く聞かれた
- 林川沿岸地域を中心に、水害時の対応についての不安を感じているとの意見もあった

4. 浅原 結果概要 その1

- 市民センター・NPOあさはら、浅原の未来を創る会等が中心となり、住民活動が活発化している
- 浅原交流会館に無人販売所が開設されるなど、生活機能の確保に対する取組もあり、地域の関係者や事業者が連携した取組が展開されており、先進的な取組となっている
- 自主防災の取組についても、市民センター、コミュニティ等が連携して動き出しており、安全・安心のまちづくりも始まっている
- 生活機能の利用は、津田・友和地域の施設を利用する人が多く、通勤等で廿日市市街などを利用する人もいる
- 車の運転ができない人からは、公共交通の乗り継ぎの不便さ等を指摘する意見がみられた

4. 浅原 結果概要 その2

- 移住者の受入に対して前向きな地域が多く、新たな人（世帯）の流入やUターンがみられ、地域活動にも巻き込み、地域活力の向上につなげている
- 地域活動が活発化したことで、住民の参加意欲も高く、次世代の流入もあることから、持続性は高まっているものの、人口減は避けられず、地域の景観管理、農地の維持など実働できる人材の確保が課題となる
- また、地区・集落単位では人口規模が縮小している地域もあるが、地理的条件から地区・集落の統合等が難しい面もあり、連携・協力体制の構築なども課題といえる

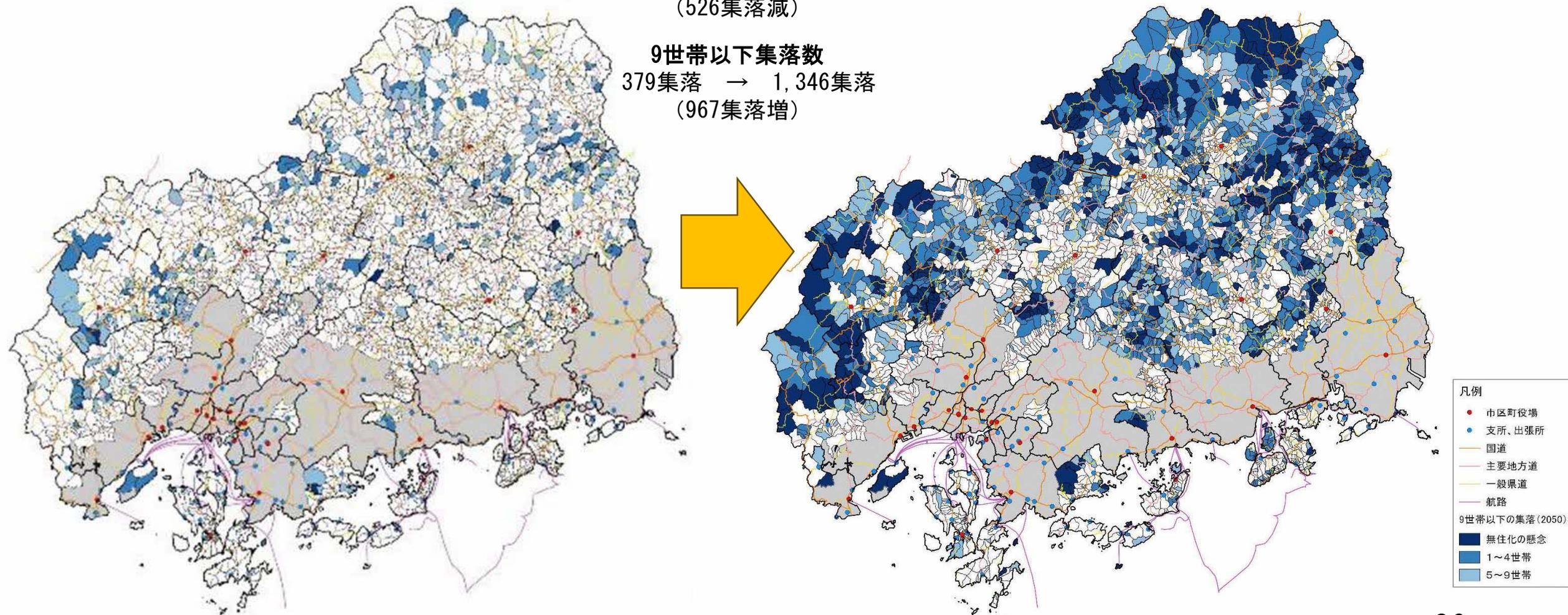
参考資料 1 担い手不足から無住化が進む中山間地域

【2019年】

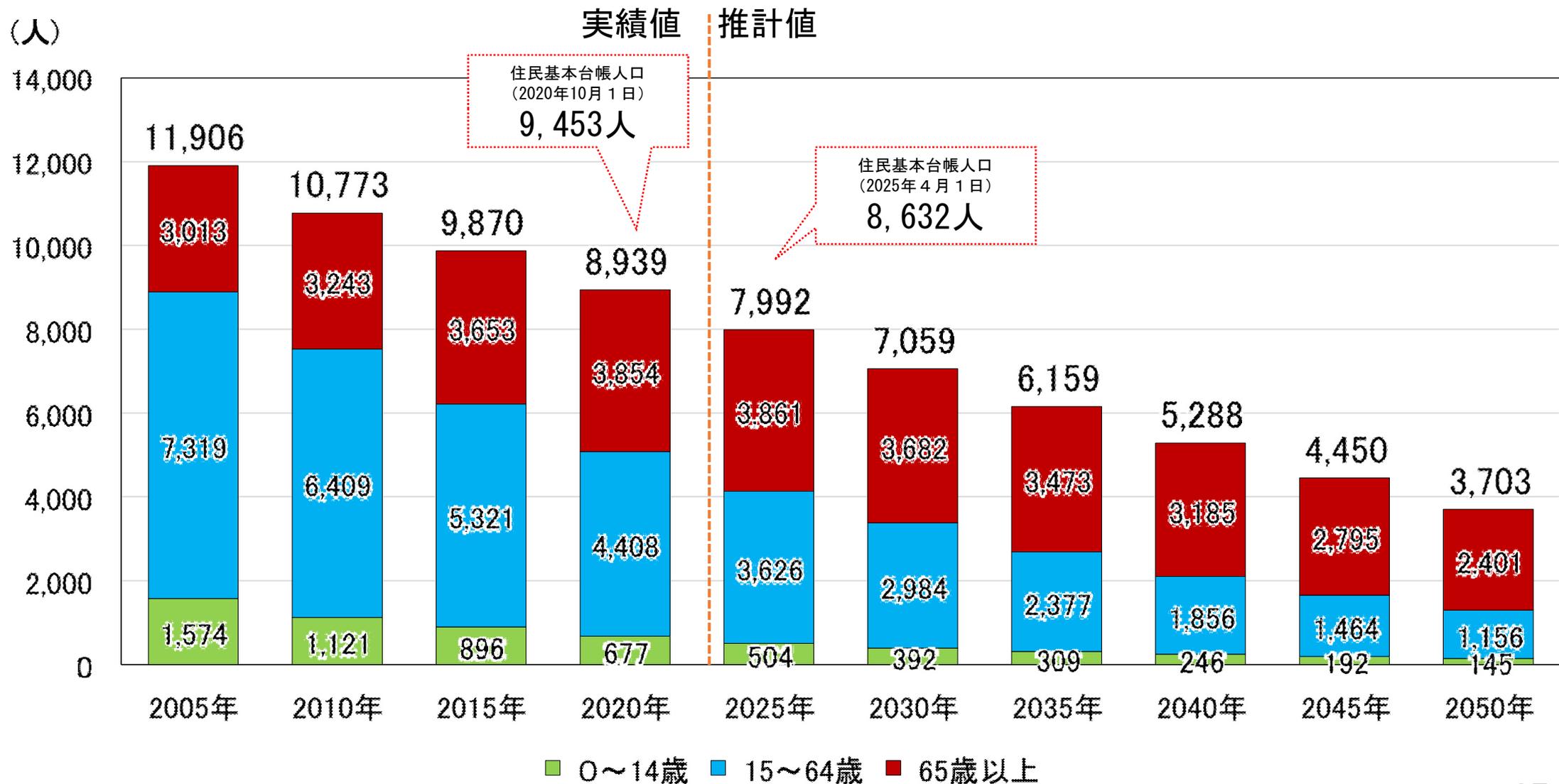
【2050年】

集落数
3,372集落 → 2,898集落
(526集落減)

9世帯以下集落数
379集落 → 1,346集落
(967集落増)

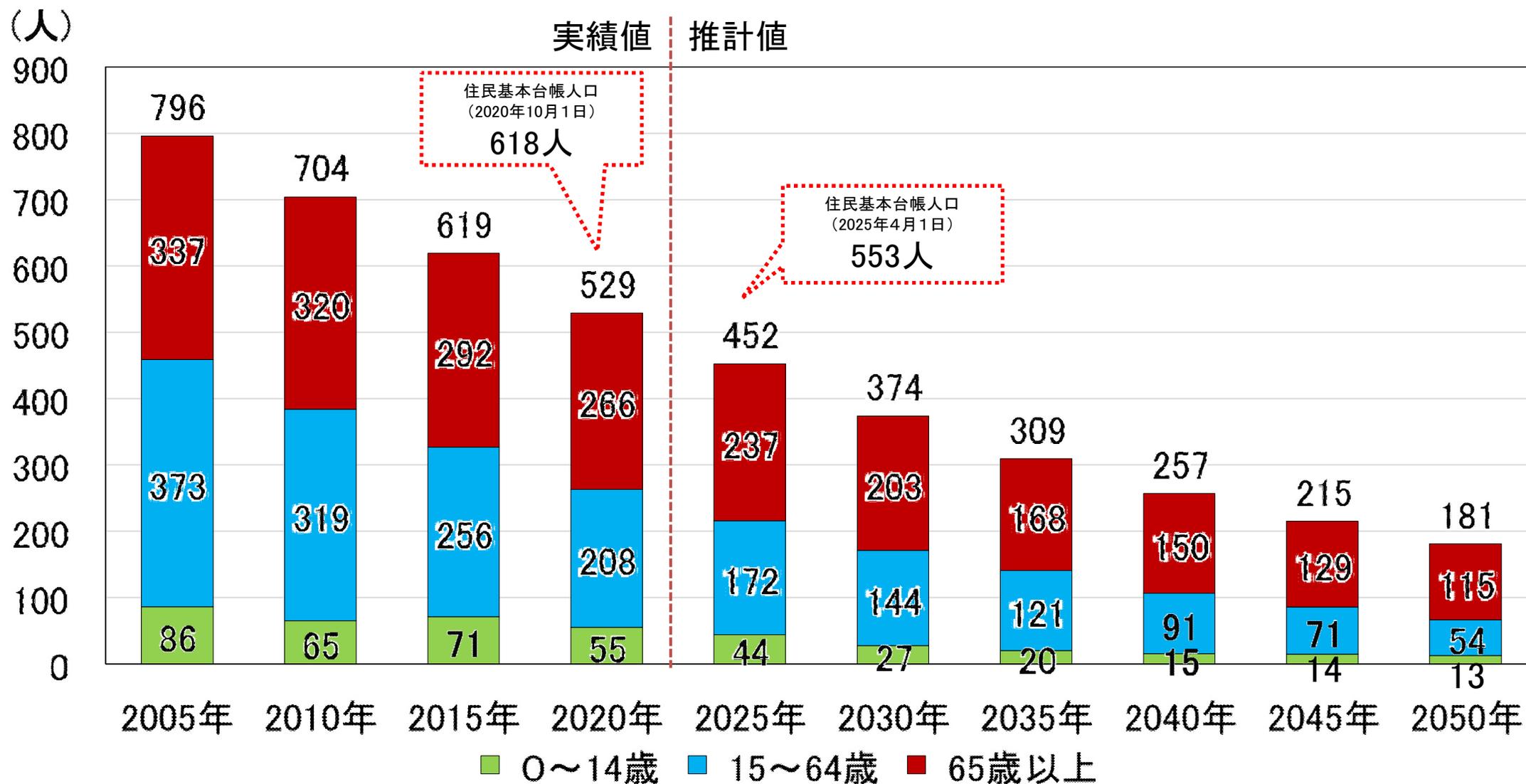


参考資料 2 佐伯地域の将来人口推計（中国創研推計値）



※ 国勢調査人口を基に最近の男女年齢別の人口変化を踏まえて推計

参考資料 3 吉和地域の将来人口推計（中国創研推計値）



※ 国勢調査人口を基に最近の男女年齢別の人口変化を踏まえて推計